

# 第9回 同心展

## 作品目録

### 「同心展」名の由来

千利休の茶会におけるモットー「一味同心」にヒントを得て命名しました。

言葉の意味としては「同じ目的をもって集まり、心を一つにすること。又、その仲間」と説明されています。そして、歴史的な背景としては「一味同心」というのはもともと、農村で農民がおこなっていた行事です。農作の合間に畦道に輪をくんで、互いに茶碗をまわしながら茶を飲み、農作物の出来具合や農耕技法についての知恵を出し合い、あるいは地域全体に起こっている問題を解決するための協議の場であったようです。

農村でこのように始まった「一味同心」は商人の間でもはやりだし、千利休は、大名と堺の商人の間に創り出しました。利休は造形美術を駆使して心を一つにした人間的な心の通い合う美しい環境、すなわち「一味同心」の茶境を創り出しました。

茶会は、すべての芸術のジャンルを総動員した一大「総合芸術」であるということになります。つまり、総合芸術に焦点をあてたいという意味もこめて、「同心」と用いました。

### 《絵画》

#### 山口 貞雄

収穫	(F 10 水彩)
夏の盛り	(F 10 水彩)
パンのある静物	(F 10 水彩)
秋桜	(F 10 水彩)
山法師の花	(F 10 水彩)
余韻	(F 10 水彩)
早春の詩	(F 10 水彩)
移りゆく刻	(F 10 水彩)
赤い帽子	(F 8 水彩)
カサブランカ	(F 6 水彩)

#### 三瓶 繁男

不動明王	(F 12 油彩)
おかみさん	(F 10 油彩)
春と秋	(F 10 油彩)
古株	(F 8 油彩)
ロンとトマト	(F 8 油彩)
弥勒菩薩	(F 6 油彩)
老木と風の精(霊シルフィード)	(F 6 油彩)
魚	(F 4 油彩)

### 《彫刻・絵画》

#### 船田 正廣

小谷家	(F 6 水彩)
インフルエンザ	(F 3 墨彩)
貝	(F 3 油彩)
白浜灯台	(サムホール木版画)
刻画「海の幸」	(70.2×182.0 石膏)
天太玉命 (あめのふとだまのみこと)	(50×50×110cm 木彫)
天富命 (あめのとみのみこと)	(30×25×90cm 木彫)



《木版画》

愛沢 伸雄

鏡ヶ浦の夕日と釣り人  
小原の緑濃い谷間  
新緑の那古山

《書》

大野 和子 (齊藤 和梗)

臨書 「雁塔聖教序」  
創作 「星の瞬き」  
" 「臨水愧遊魚」  
" 「赤尾 恵以句」  
" 「神蔵 器句」  
" 「まり子句」

《写真》

黒川 正己

「日本列島海岸巡り」

元地海岸	(北海道・礼文島)
小樽海岸	(北海道)
三王岩	(岩手県)
いわき海	(福島県)
五浦海岸	(茨城県)
巖門	(石川県)
東尋坊	(福井県)
三段壁	(和歌山県)
鳴門海峡	(徳島県)
鬼の洗濯岩	(宮崎県)

《詩》

諫川 正臣

南風  
アゲハチョウ  
風日記  
豊熟の時  
野の祭  
新しい縹帯 (挿絵 中原淳一)

《布作品・絵画》

今井 香

ヘンゼルとグレーテル (36×36×76cm)  
主の備えられた食卓 (30×40×15cm)  
La Maria de l'aurore de la Princesse  
(F 6 アクリル画)  
夏ドレス